

Weekly Report

2010~2011年度



作者の言葉

我が百合丘ロータリークラブのシンボルマーク百合の花は、世に広く知られてはいるが、その花の姿や香りに触れると、心の中に何となく、静けさや安らぎを感じることが出来る。それは、この多岐にわたる活動や、人々のつながり、そして、地域社会の発展に貢献していることに、心から感謝しているからである。この花の姿や香りに触れると、心の中に何となく、静けさや安らぎを感じることが出来る。それは、この多岐にわたる活動や、人々のつながり、そして、地域社会の発展に貢献していることに、心から感謝しているからである。

安藤登 会長
山口篤 幹事
中村和広 会報

平成22年11月16日(火)

第1560回例会

会長 安藤 登
幹事 山口 篤
会報 中村 和広

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ <http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第1560回例会記録 平成22年11月16日(火) 19/45回

<点鐘>

安藤登会長

<幹事報告>

山口篤幹事

<ソング> それでこそロータリー

*文書着 川崎中原RC 川崎幸RC
川崎とどろきRC

*会報着 川崎とどろきRC 川崎RC

<お客様ご紹介>

川崎RC 白井勇様

当クラブ元会員 大橋健一様

青少年交換学生

クラウンヴィンクル・マリウス・オーハン君
つづけてポールハリス・フェローとベネファクター
の表彰がありました。

・ポールハリス・フェロー表彰

野島会員、佐々木会員、安藤亨会員

・ベネファクター表彰 安藤登会長、山口篤幹事

<会長報告>

安藤登会長

1. 米山10月寄付傾向が参りました。
2. ガバナー事務所より「入会3年未満のロータリアンのためのR情報セミナー」開催のご案内。
古澤会員、伊丹会員、東会員、浅沼会員、中島健児会員、義務者の方はよろしくお願ひいたします。
3. 川崎・しんゆり芸術祭2011(アルテリッカしんゆり)第2回実行委員会開催のご案内。
4. 平成22年「麻生観光写真コンクール」開催のご案内。2010年11/1(月)~2011年1/31(月)

<ニコニコ委員会>

鈴木委員

川崎RC 白井勇様→「いつお世話になります。百合丘RCの皆様のおかげでイルミネーションを今年も点灯する事ができました。本当にありがとうございます。今後ともご協力よろしくお願ひします」。元会員 大橋健一様→「マリウス君の来訪に合わせてお招き頂きありがとうございます。四半世紀昔のカウンセラー冥利に尽きるものと感謝しております」。当クラブより 安藤登会長→「マリウス君ようこそ!卓話楽しみにしております」。山口篤幹事→「大橋様、白井様ようこそいらっしゃいました。マリウス君、今日はよろしくお願ひします」。以下、感謝をこめてニコニコへ。安藤志子会員、井上勇会員、伊丹会員、鴨志田会員、北島会員、小塚会員、内藤会員、中島眞一会員、中村会員、野島会員、東会員、尾崎会員、佐々木会員、関山会員、嶋会員、玉井会員、田中会員、寺尾会員、碓井会員、山口福枝会員、結城会員、鈴木会員。

第1562回 12月7日 年次総会

第1563回 12月14日 半期を省みて 山口篤幹事

第1564回 12月25日 家族会

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

<出席委員会>

山口福枝委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1560回	41*	30	11		73.17%
第1559回	41*	29	12	7	87.80%

*出席免除会員1

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	26件	28,000円	503件	579,000円
財団	0件	0円	20件	255,000円
バネファクター	0件	0円	2件	172,000円
米山	0件	0円	20件	262,000円

本日のプログラム

<招聘卓話>

青少年交換学生

クランヴィンクル・マリウス・オーハン君

先に、当クラブ元会員の大橋健一様よりご紹介がありました。「マリウス君は百合丘RC初の青少年交換学生として1983年にオランダより来日しました。4名の会員宅にホームステイしながら、県立百合丘高等学校2年に編入学し、1984年に帰国しました。帰国後はオランダ ライデン大学に入学し日本語及び法律を学び、現在は弁護士として活躍しています」。

1983年の来日当初には違った文化圏から一言の日本語も話せないままやって来た18歳の私を暖かく迎えてくださったこの思いやり深いRCが私の人生に大きな意義を与えました。

遠く遥かな未知の国を確かめるべく訪れた日本では、果てしなく続く街、箸での食事など初日から様々なカルチャーショックを受けました。

第2590地区の他の交換学生とともに横浜のシルクセンターで日本語の研修を受けた後、会員の皆さんのお宅にホームステイをしました。色々な日本食を試す機会もあり、その中で納豆と豆腐にはぞっとした思い出があります。習慣や文化の違いに驚き、しばらくはエキゾチックなバカンスのような気分でした。

しかしその生活にも変化が訪れます。百合丘高等学校の学生として学生服を着て通学を始めたのです。オランダの学校とはだいぶ違っていました。オランダでは制服も階級制度もなく校外で何をしようと自分の責任で自由です。学生服姿のまま車でタバコを吸ったあくる日に担任の先生に厳しく叱られ驚

きました。オランダでは当時16歳以上は喫煙が許可されていたのです。戸惑いはありましたがクラスメートの友情に支えられ、楽しく過ごすうちに日本が身近に感じられるようになりました。

滞在中は色々な場所へと旅行に連れて行っていました。すべて印象深いですが特に心に残るのは広島です。10万人以上の命を残忍な方法で奪い、同時にその当時はインドネシアで日本軍の捕虜であった私の祖父母に自由を与えた原爆の、日本側からの見地を知ることができました。

帰国後は大学で日本語と法律を学び、現在はロッテルダムに事務所を開いて企業の弁護士とアドバイザーとして活動しています。将来は業務的なレベルで日本とのお付き合いを深めたいです。

交換学生を経験しその意味を考えたとき、大切なのは異文化に対する印象を抱くだけでなく、その社会に自ら参加することだと考えます。物事には自分が学んできたことの他にも違うアプローチ方法があり、相手の立場に立って考え、相手のアイデアに柔軟であるべきだと。そうすることにより自分自身をよりよく知ることにもなります。交換学生制度を利用し、ロータリアン、ホストファミリー、学校、級友のおかげでこれらの発想を得ることができました。それは私にとって大きな財産となっています。

